

小学生の「税についての作文」優秀作品の紹介

徳島県知事賞

税金は思いやりの心

学島小学校 6年

浅野 千帆莉

去年、母と散歩している時、学島川の底にたまった土砂を重機がとり除いているのを見ました。父に話すと、川の水の流れをよくするために市役所が行っているということを教えてくれました。費用は税金が使われているのだそうです。私が毎日歩いている通学路に沿った水路のガードレールも税金でつけられていると知りました。私が今、安全、安心に暮らせているのは税金のおかげで、私たちの生活には欠かせないものだと知りました。

それにもかかわらず、たい納する人がいるそうです。税金を払うと損をすると思う人がいるのかもしれませんが、何らかの理由があって払えないのかもしれませんが、でも、納税額が減ると国や県、市町村の財政は苦しくなり、私たちの暮らしは成り立たなくなってしまう。困るのは私たち自身なのです。

この間、市役所の方が学校に来て税金について話をして下さいました。この時私は、五年生の時の学級目標にしていた“一人はみんなのために、みんなは一人のために”という言葉思い出しました。税金も同じだと感じたのです。国民には納税の義務があります。でも、義務だから納めるのではなく、みんなで支え合って、共に生きていこうとする気持ちが大切なのだと気がつきました。税金とは思いやりの心なのです。その心を持つようになったら、きっとたい納する人もいなくなるのではないのでしょうか。

私はまだ小学生なので、納めることも、使いみちを決めることもできません。でもこれからは、税金によって私たちの生活が守られていることを忘れないで、感謝しながら生活していこうと思います。大人になったらしっかり税金を納めます。そして、全ての人が豊かで安全、安心な暮らしができる社会にしようという自覚を持った大人になって、みんなで協力し合い社会を支えていきたいです。

小学生の「税についての作文」募集（5、6年生対象）は、毎年、徳島県下各単体法人会が中心となって行っている租税教育推進事業で、平成26年度募集では県下全体で1,640点（122校）の応募がありました。

中学生の「税についての作文」優秀作品の紹介

徳島県知事賞

台風被害に遭って

鷲敷中学校 2年

新居 杏菜

八月十日、台風十一号が徳島県内を縦断しました。私の住んでいる那賀町では、今までにないような那賀川の水量のために、約三百棟が浸水するという、大災害に襲われました。今でもあの日の恐ろしさは、忘れることができません。私の友達の家も、床上浸水や床下浸水の被害に遭いました。二階から、救助のボートで脱出したという話も聞き、本当に大変だったんだと心が痛みました。

私の母は、地域のボランティアとして、避難している人たちのために、炊き出しに行っていました。たくさんの人たちが避難場所において、母らは精一杯、できるだけのことをしたと言っていました。私は母から避難所の話を聞いたり、炊き出しの様子を聞いたりする中で、その炊き出しに使った食べ物は、だれが費用を負担するのかと思いました。そして炊き出しから帰った母に、「炊き出しに使った食べ物のお金は、だれがはらうの」と聞いてみました。すると母は、「税金から出るんだよ」と教えてくれました。

また、台風が去った翌日、私が洗面台で手を洗おうと水を出すと、水の量がいつもより少なくなっていました。水道が壊れたのかと思い、母に聞くと、母は、「台風のせいで浸水したけん、家の中を洗ったり流したりして、水不足なんじゃわ」と言いました。三十分くらい断水していた地域もあったそうです。那賀川のそばに住む私たちが、水不足になってしまうほど台風は私たちに大きな被害をもたらしたのだと、つくづく感じたのでした。

たくさんの傷を残した那賀町に、災害救助法が適用されると、ニュースで知りました。税金が私たち那賀町を助けてくれるのです。国も県も、それぞれが那賀町を助けてくれています。災害ボランティアに来てくださった全国の人たちの温かい心に感謝すると同時に、私は税金にも感謝しました。税金の意義をこんなに感じたことはなかったのです。

もし税金がなければ、家の一部が壊れてしまっても、自分で負担しなければなりません。浸水しても、安全な避難場所で休むことも、ご飯を食べることもできません。救助にあたってくれた消防署の人たち。警察の方たち。すべて税金のおかげです。私は今までなぜ税金があるのか、あまり詳しくはわかっていませんでした。でも、今回の台風で大きな被害を受けて、改めて税金のありがたさがわかった気がしています。

今年の四月に、消費税が五パーセントから八パーセントに上がりました。増税したことにより、生活が厳しくなったのは確かですが今回の台風による被害で、税金の大きな存在意義を知ることができました。わたしの町を大切なふるさとを救ってくれた税金。私は、消費税で納めた税金が、困っている人の役にたってくれると思うとうれしいです。これからも、税金が本当に必要な使われ方をして、人々を幸せにしてくれることを願っています。

中学生の「税についての作文」募集は、毎年、徳島県納税貯蓄組合連合会が中心となって行っている租税教育推進事業で、平成26年度募集では県下全体で7,142点（84校）の応募がありました。

中学生の「税についての作文」優秀作品の紹介

徳島県知事賞

税に助けられて、今、私が思うこと

徳島文理中学校 1年

大 本 泉

中学校に入学して半年経った頃、いつも飲んでいる、アレルギー性鼻炎の薬がなくなったので、耳鼻科を受診した。今までは、診察が終わったら、診察カードと薬の処方箋を受け取るだけだったのに、母は医療費を支払っていた。不思議に思ったので、病院を出て、

「今日は何で、お金を支払ったの。いつも払わないのに…。」
と私が母に聞くと、

「私たちの住んでいる所は、小学校を卒業するまでは、医療費は払わなくてもいいの。働いている人が納めている“税金”というお金で、医療費に賄われているのよ。」
と、母が教えてくれた。

母の話聞いて、本当に驚いた。それと同時に、感謝の気持ちでいっぱいになった。小さい時、体の弱かった私は、何回も入院した。また、数え切れない程、通院もし、薬を飲んだ。そのお陰で、私は今では、とても元気になった。これまで、どれだけの医療費が私のために、必要だったのか、改めて考える良い機会となった。

また、他に身の回りで税金が使われていることはないか探してみた。すると、祖父に時々届く“医療費のお知らせ”というハガキを見てみた。高齢の祖父は、肺がんの治療のために入退院を繰り返している。よって、医療費の総額は驚くほどの金額だった。しかし、これもまた、税金のお陰でわずかの支払いで済んでいる。自費で全て支払うとなると、到底不可能だ。税金の有難さを痛感した。

また、毎日、使っている教科書が、私たち義務教育中の児童や生徒に、無償で提供されていることが分かった。本屋さんで買う本には、値段が記されているが、教科書には値段の表示はなく、
「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

と書かれていた小学校1年生から今まで、学年が変わる度に、たくさんの教科書をあたり前のようにもらい、それを使ってきた。値段にすると、どれくらいするのだろうか。想像もつかない。

今、私にできることは、この教科書でしっかり勉強することだと思う。それが、何よりのご恩返しになるのではないだろうか。そして、将来、働き始めて給料の中から税金を納めたいと思う。

また、私も今までそうであったが、税金の意味、また、その重要性を社会の中で、正しく伝えていけるような人間になりたいと思う。そうすることが、教科書の裏にも書かれていた、“これからの日本を担う”私たちの使命ではないかと思う。明るい未来の日本のためにも、正しい税金の知識と役割を胸に秘め、立派な社会人になることを、ここに誓う。